

「千切りキャベツ」などのパッケージサラダ（カット野菜を含む）が、「1袋100円の壁」に直面している。従事者数・生産量ともに減少傾向が続くわが国の農業では、生産コストがここ数年大きく上昇し、足元では猛暑影響でパッケージサラダの原料不足が深刻化している。また、相場連動によって価格が決まる生鮮野菜の価格上昇率に対し、パッケージサラダは及んでいない。未曾有の材料不足の中、依然旺盛な需要に対し、ダイナミックプライシング（需要に応じた価格設定）の必

千切りキャベツなどパッケージサラダ 深刻「100円の壁」

需要応じた価格設定の必要も

要件も出てきた。

パッケージサラダはライフスタイルの変化や時短・即食ニーズの増大、单身世帯の増加などを背景に拡大を継続。市場規模はここ10年間で倍増し、約2000億円に到達してい

直近3年間で生産コストは14%上昇している。これに添じて生鮮キャベツの店頭価格も総じて上昇している（千切りキャベツ）は「1袋100円」の価格設定を長く据え置く。生鮮野菜の契約取引で旬に沿った野菜調達を行っているが、「従来までの価格設定で現状に対応することは不可能な状況にある。需要に応じて本体価格を設定するダイナミックプライシングの場合、生産者・生産

る。中でも最大カテゴリーの「千切りキャベツ」は生鮮売場の定番商品で、CVSなどでも高い配荷率を誇る。

状況が総じて続いている。最大の「千切りキャベツ」は生鮮売場の定番商品で、CVSなどでも高い配荷率を誇る。

も、将来的に導入することを検討していかないと強

る。中でも最大カテゴリーの「千切りキャベツ」は生鮮売場の定番商品で、CVSなどでも高い配荷率を誇る。

最大手・サラダクラブの金子俊浩社長は「特に足元では猛暑の影響もあり、完全に潮目が変わった。原料野菜がなくなる可能性もある」と危惧する。同社では約400に及ぶ野菜を使用したサラダ

地帯の収益安定化にも一役買っている。需要増と未曾有の原料環境悪化の中で、「1袋100円の壁」への対応が急務なパッケージサラダ。安定供給継続のための、英断が求められる。

一方、ここ数年の燃料・肥料などの高騰を受け、生産コスト（経営費）はさらに上昇。キャベツを例にとると

影響もあり、完全に潮目が変わった。原料野菜がなくなる可能性もある」と危惧する。同社では約400に及ぶ野菜を使用したサラダ

品質管理技術が凝縮され、同社では消費期限の延長化やさまざまな野菜を使用したサラダ

（村岡直樹）